



CAGLIERO 11

カリエロ



154 2021年 10月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人、 会員の皆さん、

イエス・キリストへの情熱にあふれ、神の国の真福八端を告げる喜びを体験する「宣教する弟子」。教会の交わりの体験は、宣教する弟子にとって基本です。

キリスト者としての生活のすばらしさの秘密は、私たちがいつも共同体の中で暮らしていることです：家庭で、小教区で、奉獻生活の共同体、草の根の地域共同体で、さまざまなグループや運動で。私たちが喜びや悲しみを分かち合う共同体の力が、使命において私たちを支えます。対話と共同体としての識別は、弟子にとって日々の鍛錬になります。

今日私たちは、かつてないほどに、宣教する弟子として、共同体の中で友愛を培うよう呼ばれています。それは互いを評価し大切にすることを意味し、意見の一致を求めさせ、道を開き、橋を架け、私たちが平和の建設者にします。

■ 南米サウス・コーン地域顧問
ガブリエル・ロメロ神父, SDB

信徒とサレジオ会員、 宣教する弟子として

洗礼の秘跡によって、**すべてのキリスト者は神の民**であり、教会の使命にあずかっています。第二バチカン公会議は、洗礼を受けたすべての人、すべてのキリスト者共同体が、信仰の前線を広げる教会の宣教の務めにあずかっていることを特別に強調しました（教会の宣教活動に関する教令 2, 6）。したがって、すべての弟子、すべてのキリスト者共同体は、「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで」（使徒言行録1・8）ご自分の証人となるようにと、イエスが使徒たちにゆだねられた任務を自らのものとし宣教するよう、挑戦を投げかけられ、招かれています。そのため、教皇フランシスコは主張します。洗礼を受けた教会のすべての成員について、「わたしたちはもう自分たちを『弟子』や『宣教者』というよりも、『**宣教する弟子**』といいます。」（使徒的勧告『福音の喜び』120）

奉獻された者として、私たちサレジオ会員の修道誓願は、教会における私たち固有の使命に則した、洗礼による聖別の類なく実り豊かな深まりです。私たちはサレジオ会員として、どこにいても、真に若者の宣教師であり、**若者たちが私たちの宣教地**なのです。私たちはドン・ボスコの宣教精神を生きることによって、宣教する弟子としてのアイデンティティーを生まります。Da mihi animasに集約されるこの宣教精神は、私たちの牧者の愛の中心であり、「オラトリオの心」、諸文化、諸宗教との対話への熱意、その推進、力量に表れます。それは福音宣教の情熱、特に若者への福音宣教の情熱、必要があるところどこにでも遣わされる用意のある心です。アルベルト・カヴィリア神父が「サレジオのモットー」と考えていた 'ci vado io'（私が行きましょう）に表現されるものです。要するに、宣教精神は、すべてのサレジオ会員の特徴です。なぜならそれは、ドン・ボスコのカリスマそのものに根ざすからです。この宣教精神こそ、「**恒常的に宣教する姿勢**」をもってサレジオの奉獻を生きるようにさせてくれるのです。

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父 SDB

振り返りと 分かち合いの ために

■ 私は、信徒、
または奉獻生活者として、どの
ように宣教する弟
子として生きて
いるだろうか？



アンゴラ、豊かな召命の国



マルティン神父様、神父様はウルグアイ出身、宣教地、またローマの宣教部門でも働かれ、現在、さまざまな国出身のサレジオ会員から成るアンゴラ準管区の長上です。私たちの修道会がますます国際的になっていることについて、どのように感じていますか？

アンゴラでは40年がたち、アンゴラ人の召命が増えているので、国際性はやや薄くなりました。現在、私たちは10か国の会員から成っています：パラグアイ人1人、スペイン人1人、インド人1人、トーゴ人2人、イタリア人3人、ベトナム人3人、アルゼンチン人5人、ウルグアイ人5人、ブラジル人6人、そして117人のアンゴラ人です。国籍が多様なことは、大いなる豊かさです：サレジオ会のカトリックの普遍性を浮かび上がらせてくれます。私たちは、アンゴラ人会員をほかの文化へ送り出すことによってこの国際性を生きたいと願っています：アイルランド、ポルトガル、パプアニューギニア、中東へと。

今のアンゴラの若者はどんな若者たちなのか教えてください。30年前の神父様の現地課程のころと比べ、若者はどのように変わりましたか？

社会経済的な状況、また政治状況が大きく変わり、若者の生活に影響を及ぼしました。前は内戦があり、そのあらゆる悲劇が繰り返されました。今は、少なくとも多くの若者にとって、高等教育を受ける可能性が開かれています。国の内陸部から大きな町へ移住する人が増え、グローバル化した文化とその結果であるアイデンティティーの危機は、強い影響を及ぼす要素になっています。しかし、その中でも微笑みは変わりません。アンゴラの若者は一般的にとっても朗らかで人づきあいがよく、サレジオの価値観に関心を持っています。

アンゴラには、サレジオ会員としてご自分に従うようにというイエスの呼びかけに応える若者が多くいるそうですね？

若者たちは、とても寛大に召命に応えます。今、18人の修練生、20人の修練準備期生がいます。また、74人の少年、若者からサレジオ会員になりたいという願いが届いています。その過程の2つのキーワードは、識別と同伴です。そのため一人ひとりに寄り添った歩み、若者たちの家庭を知ることが不可欠です。私たちの青年グループでしばらく歩んだ後、若者たちのうち何人かは志願院に入りたいと願います。私たちには4種類の志願院があります：15 - 18歳の若者、19 - 20歳の若者のための志願院、サレジオ会共同体で暮らしながら識別を行う場合、そしてサレジオ会員に同伴されながら、自分の家で識別を続ける場合です。



ブラハの会議で、ジャンニ・ロランディ神父ほか管区宣教担当者たちと。



マルティン・ラサルテトボランスキー神父 SDB

ウルグアイのモンテビデオ出身、同地でサレジオ会入会(1982年)、司祭叙階(1991年)。モンテビデオで工学、哲学、教育学を学んだ後、ローマの教皇庁立サレジオ大学で神学学士号を取得、続いて、教皇庁立聖書研究所で修士号を取得。

1995年からアンゴラで、初めはルアンダの大神学校で養成を担当、教鞭を執り、その後、ルウェナ共同体の院長、小教区主任司祭、アンゴラの管区青少年司牧担当者を務める。

2015年、サレジオ会ローマ本部に移り、宣教師の養成、世界の宣教活性化(カリエロ11の編集)、国際サレジオ・ボランティア活動のために働く。また、アマゾン・シノドス(2019年)に教父の一人として参加。

2020年より、アンゴラのサレジオ会「ムシマの聖母」準管区の長上を務める。

ウルグアイ⇒アンゴラ⇒ローマ⇒アンゴラ

世界のエコロジカル・フットプリント*

- フ
ォ
ー
ム
- 世界の自然環境に最も深刻な打撃を与える要因：
排出/産業ガス58%、森林破壊33%、水資源の流失8%
 - エコロジカル・フットプリントの最も大きい国(単位グローバル・ヘクタール)
中国5,010,000,000、米国2,725,000,000、インド1,361,000,000、ロシア821,000,000
 - エコロジカル・フットプリントの最も小さい国(単位グローバル・ヘクタール)
モンセラット27,400、ナウル29,500、クック諸島80,200、ドミニカ161,700、トンガ304,300

* エコロジカル・フットプリント 人間一人が生活するために必要な資源量を土地の面積で表した数値。

参考：ボランティアプラットフォーム <https://volunteer-platform.org/words/academic-terms/ecological-footprint/>



10月
サレジオ
宣教の
祈りの意向

宣教する弟子

アルゼンチンで、
多くの新たなサレジオの宣教召命が与えられますように。

洗礼を受けたすべての人が、心を開いて使命に応え、福音の香りを放つ生き方をあかしし、福音宣教に取り組むよう、祈りましょう。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

アメリカ大陸の
ために

